

2026年度シラバス

高等学校 1年



駒沢学園女子高等学校

仏教（2026年度）

単位数	1単位
担当	中村 友恵
教科書	『駒沢学園の仏教』
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

一年間の駒沢学園の仏教行事と、お唱え（三帰礼文、四弘誓願文、五観の偈）を理解させると同時に、釈尊や道元禅師の一生を学ぶことで、生き死について考えを深める。

また「仏道をなろうというは自己をなろうなり」（『正法眼蔵』）という教えをもとに、仏教の時間をとおして、自分とは何か、「今」をどう生きるのかを、一人ひとりが自分事として、見つめなおす時間にしていく。あわせて、仏教という視点からSDGsや国際デーなどについても考える機会を持つよう授業を展開する。

2. 副教材・参考書

- ・『駒沢学園の仏教』
- ・DVD・プリントなど
- ・授業において、坐禅・写経・写仏の体験実習を行う。

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

創立99周年の歴史を持つ、駒沢学園の仏教の原点に立ち戻り、建学の精神を重視する学習を目標とする。本学園の禅を基盤とする建学の精神や日常の学校活動・年間仏教行事などの理念や目的を明らかにし、坐禅実習を通して生徒の身心の育成にあたる。

4. 宿題・課題・再試について

- ・授業時に行う課題提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験の結果が30点未満の場合は課題を行う。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（80%）、提出物（20%）により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
第一学期	期末	建学の精神 「正念」と「行学一如」 花まつり 人間の生命の誕生、命の大切さ、平等思想について
		坐禅実習 坐禅の意義、仕方について
		三帰礼文 人間の正しい生活の心構えについて
		四弘誓願文 智慧と慈悲の関係、四苦八苦について
第二学期	期末	永平寺研修 永平寺や道元禅師について
		追善記念日 「千の風になって」から追善供養の意義について考える。【SDGs 対象授業】
		五観の偈 恩について、六道輪廻について 絵本『いのちをいただく』を読み、普段何気なく食している食べ物にも「命」の存在があったということに思いを巡らせる。そして「いただきます」の本来の意味を考えさせ、感謝の気持ちを抱くことやいのちの大切さを知る。【SDGs 対象授業】
		写経・写仏 仏教文化に親しむ
		摂心会と成道会 日常生活の中において自分自身を見つめ直し、思いやりや生かされていることの意味を考える。(無財の七施)
第三学期	学年末	誕生記念日 道元禅師、学園の誕生にちなみ、新しい生命の誕生、そして大切さを学ぶ。【SDGs 対象授業】
		涅槃会と針供養 釈尊の涅槃に基づき、命の大切さ、死、そして人間としての生き方について考える。 (自灯明・法灯明) 【SDGs 対象授業】
		山上忌 創設者である山上曹源について学び、戦前・戦中・戦後と激変する時代を見てきた人物が何を思い、何を未来の駒沢学園に託したのかを各自が自分事として捉えられる機会とする。

現代の国語 (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	天野
教科書	精選現代の国語改定版(三省堂)
対象生徒	高校 1 年 (進学クラス)

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- (4) 学習する教材のテーマを SDGs に関連させる

2. 副教材・参考書

『ビジュアルカラー国語便覧 改定版』(大修館書店)

『常用漢字ダブルクリア 五訂版』(尚文出版)

『図でつかむリード現代文 1 二訂版』(啓隆社)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内容を毎時間しっかりとまとめる力をつける。
- ・グループ学習・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ・提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・教材に応じて課題を出す。
- ・年間を通して漢字検定合格を目標にする。授業内で漢字テストを実施し、定期試験にも出題して繰り返し学習する。
※年度当初に各自の漢検取得目標級を決め、漢字テスト・漢検トレーニングアプリ等で合格を目指す。
- ・定期試験の得点が 30 点未満のものを対象として、再試または課題を課す。
- ・読書の習慣をつけるため、「読書ノート」を作成して内容を学期ごとに共有する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 80%、パフォーマンス評価 20%により評価をする。観点別評価を行う。
- ※「現代の国語」は 2 学期から加点をする。
- 高 1 : 4 級 (+5 点)・3 級 (+10 点)・準 2 級 (+15 点)・2 級 (+20 点)

6. その他

- ・授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	『水の東西』 (P30~35) 参考: 論理的文章の基本構造 (巻頭〈1〉) 参考: 『学びを広げる 身近な日本文化を紹介しよう』 (P42~43) 応用問題: 『図でつかむリード現代文 二訂版』
	期末	『ものことば』 (P74~81) 参考: 『辞書は生きている』 (P91~93) 応用問題: 『図でつかむリード現代文 二訂版』
二学期	中間	『贈り物と商品の違い』 (P96~104) 応用問題: 『図でつかむリード現代文 二訂版』
	期末	『自然をめぐる合意の設計』 (P177~181) 参考: 実用的文章の特徴 (巻頭〈3〉) 参考: ヒグマとどう共生するか——『北海道新聞』2019年12月4日の記事より (P186) 参考: 『GPS付け行動確認を』 (P187~189) 参考: 『学びを広げる マイクロディベートをやってみよう』 (P182~185) 応用問題: 『図でつかむリード現代文 二訂版』
三学期	学年末	『共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点』 (P222~226) 参考: 『ガンベリ砂漠を目指せ——緑の大地をつくる』 応用問題: 『図でつかむリード現代文 二訂版』

現代の国語 (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	天野
教科書	精選現代の国語改定版(三省堂)
対象生徒	高校 1 年 (特進・英語クラス)

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
- (4) 学習する教材のテーマを SDGs に関連させる

2. 副教材・参考書

『ビジュアルカラー国語便覧 改定版』(大修館書店)
『常用漢字ダブルクリア 五訂版』(尚文出版)
『現代文 思考のスイッチ 1 必修編』(浜島書店)

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内容を毎時間しっかりとまとめる力をつける。
- ・グループ学習・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ・提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ・教材に応じて課題を出す。
- ・年間を通して漢字検定合格を目標にする。授業内で漢字テストを実施し、定期試験にも出題して繰り返し学習する。
※年度当初に各自の漢検取得目標級を決め、漢字テスト・漢検トレーニングアプリ等で合格を目指す。
- ・定期試験の得点が 30 点未満のものを対象として、再試または課題を課す。
- ・読書の習慣をつけるため、「読書ノート」を作成して内容を学期ごとに共有する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 80%、パフォーマンス評価 20%により評価をする。観点別評価を行う

※「現代の国語」は 2 学期から加点をする。

高 1 : 4 級 (+5 点)・3 級 (+10 点)・準 2 級 (+15 点)・2 級 (+20 点)

6. その他

- ・授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	『水の東西』 (P30~35) 参考: 論理的文章の基本構造 (巻頭〈1〉) 参考: 『「見える文化」/「見えない文化」』 (P138~139) 応用問題: 『現代文 思考の論理スイッチ1 必修編』
	期末	『ものごとことば』 (P74~81) 参考: 『辞書は生きている』 (P91~93) 応用問題: 『現代文 思考の論理スイッチ1 必修編』
二学期	中間	『贈り物と商品の違い』 (P96~104) 応用問題: 『現代文 思考の論理スイッチ1 必修編』
	期末	『自然をめぐる合意の設計』 (P177~181) 参考: 実用的文章の特徴 (巻頭〈3〉) 参考: ヒグマとどう共生するか——『北海道新聞』2019年12月4日の記事より (P186) 参考: 『GPS付け行動確認を』 (P187~189) 応用問題: 『現代文 思考の論理スイッチ1 必修編』
三学期	学年末	『共生社会で求められる「相対的よそ者」の視点』 (P222~226) 参考: 『ガンバリ砂漠を目指せ——緑の大地をつくる』 応用問題: 『現代文 思考の論理スイッチ1 必修編』

言語文化(2025年度)

単位数	2単位
担当	上山
教科書	『精選 言語文化』(第一学習社)
対象生徒	高校1年 (進学クラス)

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

- (ア) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (イ) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
→SDGsの目標1「貧困をなくそう」、目標2「飢餓をゼロに」に繋げていく。

2. 副教材・参考書

大修館『ビジュアルカラー国語便覧』

尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文』

尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』

啓隆社『図でつかむ リード現代文』

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ①授業内容を毎時間しっかりとまとめる。
- ②グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ①教材に応じて課題を出す。
- ②定期試験の得点が30点未満のものを対象として、再試または課題を課して合格できるまで行う。
- ③授業内課題を出す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点80%、パフォーマンス評価20%により評価をする。
- ・観点別評価を行う。

6. その他

- ①授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容（教材）
一学期	中間	古文 古文の学習（P122～123） 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」（P144～145） 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』（P2～8, 11） 応用 『図でつかむ リード現代文』
	期末	小説 『羅生門』（P28～44） 芥川龍之介文学史も含む ※SDGsにつなげる 漢文 漢文の学習（P206～207） 訓読に親しむ（一）（二）（三）（P266～273） 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』（P48～53）
二学期	中間	古文 『伊勢物語』 「芥川」（P176～177） 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』（P9～10, 14～15, 20～22） 詩 『一つのメルヘン』（P62～63） 応用 『図でつかむ リード現代文』
	期末	小説 『城の崎にて』（P110～122） 漢文 唐詩の世界（P296～303）
三学期	学年末	古文 『枕草子』 「中納言参りたまひて」（P214～215） ※古文文法まとめ含む 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』（P28～29） 漢文 『戦国策』 「漁夫之利」（P278～279） 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』（P54） 応用 『図でつかむ リード現代文』

言語文化(2026年度)

単位数	2単位
担当	渡邊
教科書	『精選 言語文化』(第一学習社)
対象生徒	高校1年 (特進・英語クラス)

1. 授業の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを旨とする。

- (ア) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (イ) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりするちからを伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (ウ) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

→SDGsの目標1「貧困をなくそう」、目標2「飢餓をゼロに」に繋げていく。

2. 副教材・参考書

大修館『ビジュアルカラー国語便覧』

尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文』

尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』

浜島書店『思考の論理スイッチ必修編1』

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ①授業内容を毎時間しっかりとまとめる。
- ②グループ学習・音読・発表などに前向きに取り組み、能力を高める。
- ③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

- ①教材に応じて課題を出す。
- ②定期試験の得点が30点未満のものを対象として、再試または課題を課して合格できるまで行う。
- ③授業内課題を出す。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点80%、パフォーマンス評価20%により評価をする。
- ・観点別評価を行う。
- ・試験は進学クラスとは別の試験になる可能性がある。

6. その他

- ①授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	古文 古文の学習 (P122~123) 『宇治拾遺物語』 「児のそら寝」 (P144~145) 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 (P2~8, 11) 応用 『思考の論理スイッチ』
	期末	小説 『羅生門』 (P28~44) 芥川龍之介文学史も含む ※SDGsにつなげる 漢文 漢文の学習 (P206~207) 訓読に親しむ (一) (二) (三) (P266~273) 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 (P48~53)
二学期	中間	古文 『伊勢物語』 「芥川」 (P176~177) 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 (P9~10, 14~15, 20~22) 詩 『一つのメルヘン』 (P62~63) 応用 『思考の論理スイッチ』
	期末	小説 『城の崎にて』 (P110~122) 漢文 唐詩の世界 (P296~303)
三学期	学年末	古文 『枕草子』 「中納言参りたまひて」 (P214~215) ※古文文法まとめ含む 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 (P28~29) 漢文 『戦国策』 「漁夫之利」 (P278~279) 『学ぶぞ 古文と漢文 基本練習ノート』 (P54) 応用 『思考の論理スイッチ』

歴史総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	金森 仁美 根本 隆一
教科書	歴史総合私たちの歴史(山川出版社)
対象生徒	高校1年(進学クラス)

1. 授業の目標

現代の事象を理解するために歴史を学び、日々の生活の中でも応用できるような知識と教養を養う。
また、授業内においては資料を読み取る力をつけ、SDGsなどの現代社会における諸問題、日本と世界のかかわりについて考察していけるようにする。

2. 副教材・参考書

なし

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

歴史は覚えなければならないことが多く大変です。そして、単語を丸暗記しただけでは意味がありません。物事には必ず「原因」と「結果」があるということを念頭に置き、全体を把握するようにしてゆきましょう。わからないこと、気になったことはそのままにせず、質問する、調べる、考えるということを習慣づけられるようにしましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・小單元ごとに一問一答形式の課題を配布する。
- ・適宜、定期試験に向けて小テストを実施する。
- ・定期試験で30点未満の場合、再試を実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)、宿題(5%)、小テスト(5%)、レポート(10%)により評価をする。
- ・以下の表のように観点別評価をつける。

	定期試験・小テスト	定期試験	日々の課題の提出
A	問題を概ね解くことができる。	高度な思考力を要する問題を解くことができる。	授業に意欲的に参加。課題にもしっかりと取り組んでいる。
B	基本的な問題を解くことができる。	知識を応用して問題を解くことができる。	多少遅れることもあるが課題に対して継続的に取り組んでいる。
C	基本的な事項・知識は理解している。	応用問題にも取り組む姿勢がみられる。	課題に取り組もうとしている意欲は感じられる。
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

6. その他

授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性がある。

中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用いる。

学期	授業内容(教材)
一学期 学期末	第1部 近代化と私たち 結びつく世界/18Cの世界とアジア/産業革命/アヘン戦争と日本/日本の開国/日本開国時の国際情勢/開国後の日本社会/市民革命と国民統合/明治維新/富国強兵と文明開化/日本の明治初期の外交/大日本帝国憲法の制定/日本の産業革命と日清戦争/帝国主義/日露戦争と韓国併合
二学期 学期末	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 大衆運動の芽生え/第一次世界大戦/第一次世界大戦と日本/ロシア革命とその影響/社会運動の広がり/国際協調/アジアの民族運動/大衆社会の到来/世界恐慌/独裁勢力の台頭/日本のアジア侵出/第二次世界大戦/第二次世界大戦と日本/第二次世界大戦の終結/戦後国際秩序/冷戦の始まり/日本の戦後改革と日本国憲法/日本の独立
三学期 学期末	第3部 グローバル化と私たち 第三世界の登場/冷戦の固定化と雪解け/冷戦の展開/55年体制と安保闘争/高度経済成長の光と影/ベトナム戦争とアメリカ/経済構造の変化/アジアの経済成長/社会主義の停滞と新自由主義/冷戦の終結/冷戦後の地域紛争/地域統合/現代世界の諸課題/日本の諸課題

歴史総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	太田 海祿
教科書	歴史総合私たちの歴史(山川出版社)
対象生徒	高校1年(特進クラス)

1. 授業の目標

- ・過去の出来事を暗記することではなく、現代社会の「当たり前」を疑い、自分の頭で考えるための「武器」を手に入れる。
- ・日本と世界の歴史がどのように繋がり、近代化や大衆化、グローバル化が私たちの生活をどう形作ってきたのかを探究することを通して、価値観の異なる人々と共生していくための「歴史的な見方・考え方」を身につける。

2. 副教材・参考書

- ・公的機関のアーカイブ

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・「黒板をひたすら写す授業」はしません。授業は「インプット(知識の獲得)」と「アウトプット(対話と表現)」の2つのサイクルで進みます。
- ・暗記が苦手でも大丈夫です。失敗を恐れず、自分の意見を言葉にすることを楽しんでください。
- ・これまでと異なる授業スタイルや「自分の意見を書く」ことに不安を感じる人もいるかもしれませんが、心配はいりません。丸暗記ではなく「自分で考える力」を重視し、そのためのサポートは丁寧に行います。
- ・困ったときはいつでも相談してください。安心して挑戦していきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・各単元の基礎知識を確認するため、基礎知識チェックテストを実施します。これは教科書を見ながら解答して構いません。満点が取れるまで、何度でもやり直して確実な知識を身につけてください。
- ・各学期の節目には、授業での対話を踏まえた小論文やレポート課題を課します。
- ・定期試験で30点未満の場合、再試を実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(50%~80%)とパフォーマンス評価(20%~50%)の割合をもとに、観点別評価(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)を算出し、総合評価を決定します。

6. その他

- ・授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性があります。
- ・中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用います。

学期		授業内容(教材)
一学期	学期末	第1部 近代化と私たち 結びつく世界/18Cの世界とアジア/産業革命/アヘン戦争と日本/日本の開国/日本開国時の国際情勢/開国後の日本社会/市民革命と国民統合/明治維新/富国強兵と文明開化/日本の明治初期の外交/大日本帝国憲法の制定/日本の産業革命と日清戦争/帝国主義/日露戦争と韓国併合
二学期	学期末	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 大衆運動の芽生え/第一次世界大戦/第一次世界大戦と日本/ロシア革命とその影響/社会運動の広がり/国際協調/アジアの民族運動/大衆社会の到来/世界恐慌/独裁勢力の台頭/日本のアジア侵出/第二次世界大戦/第二次世界大戦と日本/第二次世界大戦の終結/戦後国際秩序/冷戦の始まり/日本の戦後改革と日本国憲法/日本の独立
三学期	学期末	第3部 グローバル化と私たち 第三世界の登場/冷戦の固定化と雪解け/冷戦の展開/55年体制と安保闘争/高度経済成長の光と影/ベトナム戦争とアメリカ/経済構造の変化/アジアの経済成長/社会主義の停滞と新自由主義/冷戦の終結/冷戦後の地域紛争/地域統合/現代世界の諸課題/日本の諸課題

歴史総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	太田 海祿
教科書	歴史総合私たちの歴史(山川出版社)
対象生徒	高校1年(英語クラス)

1. 授業の目標

- 過去の出来事を暗記することではなく、現代社会の「当たり前」を疑い、自分の頭で考えるための「武器」を手に入れる。
- 日本と世界の歴史がどのように繋がり、近代化や大衆化、グローバル化が私たちの生活をどう形作ってきたのかを探究することを通して、価値観の異なる人々と共生していくための「歴史的な見方・考え方」を身につける。

2. 副教材・参考書

- 公的機関のアーカイブ

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- 「黒板をひたすら写す授業」はしません。授業は「インプット(知識の獲得)」と「アウトプット(対話と表現)」の2つのサイクルで進みます。
- 暗記が苦手でも大丈夫です。失敗を恐れず、自分の意見を言葉にすることを楽しんでください。
- これまでと異なる授業スタイルや「自分の意見を書く」ことに不安を感じる人もいるかもしれませんが、心配はいりません。丸暗記ではなく「自分で考える力」を重視し、そのためのサポートは丁寧に行います。
- 困ったときはいつでも相談してください。安心して挑戦していきましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- 各単元の基礎知識を確認するため、基礎知識チェックテストを実施します。これは教科書を見ながら解答して構いません。満点が取れるまで、何度でもやり直して確実な知識を身につけてください。
- 各学期の節目には、授業での対話を踏まえた小論文やレポート課題を課します。
- 定期試験で30点未満の場合、再試を実施する。

5. 評価の基準について

- 定期試験の得点(50%~80%)とパフォーマンス評価(20%~50%)の割合をもとに、観点別評価(「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」)を算出し、総合評価を決定します。

6. その他

- 授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性があります。
- 中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用います。

学期	授業内容(教材)
一学期	<p>第1部 近代化と私たち</p> <p>結びつく世界/18Cの世界とアジア/産業革命/アヘン戦争と日本/日本の開国/日本開国時の国際情勢/開国後の日本社会/市民革命と国民統合/明治維新/富国強兵と文明開化/日本の明治初期の外交/大日本帝国憲法の制定/日本の産業革命と日清戦争/帝国主義/日露戦争と韓国併合</p>
二学期	<p>第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>大衆運動の芽生え/第一次世界大戦/第一次世界大戦と日本/ロシア革命とその影響/社会運動の広がり/国際協調/アジアの民族運動/大衆社会の到来/世界恐慌/独裁勢力の台頭/日本のアジア侵出/第二次世界大戦/第二次世界大戦と日本/第二次世界大戦の終結/戦後国際秩序/冷戦の始まり/日本の戦後改革と日本国憲法/日本の独立</p> <p>第3部 グローバル化と私たち</p> <p>第三世界の登場/冷戦の固定化と雪解け/冷戦の展開/55年体制と安保闘争/高度経済成長の光と影/ベトナム戦争とアメリカ/経済構造の変化/アジアの経済成長/社会主義の停滞と新自由主義/冷戦の終結/冷戦後の地域紛争/地域統合/現代世界の諸課題/日本の諸課題</p>

地理総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	太田 海禄 金森 仁美
教科書	高等学校 地理総合(東京書籍)
対象生徒	高校1年(進学クラス)

1. 授業の目標

- ・地理的な見方・考え方を働かせ、現代世界の課題を自分自身の生活（日々の消費、将来の住まい、防犯や防災など）と結びつけて考察する力を養う。
- ・「なぜそうなっているのか？」という逆向きの問いから出発し、主体的にデータや空間を読み解き、持続可能な社会に向けて「自分の居場所」をデザインする力を身につける。

2. 副教材・参考書

- ・新詳 高等地図(帝国書院)、Google Earth、地理院地図などの各種地理データ及び Web GIS ツール

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・教科書や地図帳を用いた、日々の基礎用語のインプット（予習・復習）を欠かさないようにしてください。
- ・iPadでの作業時は、目や姿勢への負担を減らすため画面分割は使わず、フルスクリーンでアプリをスワイプで切り替えながら使用してください。
- ・机の上には常に紙の地図帳や教科書を開いておく習慣をつけましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題や課題は授業中に指示をします。
- ・各学期の節目には、授業での対話を踏まえた小論文やレポート課題を課します。
- ・定期テストで30点未満の者は再試または再試課題を出します。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（50%～80%）、パフォーマンス評価（レポートや探究活動での表現等）（20%～50%）により評価をする。
- ・観点別評価をつける。（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）

6. その他

- ・授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性がある。
- ・中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用いる。

学期		授業内容（教材）
1学期	学期末	第1編 第1章 地図と地理情報システム（地図・GIS） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（気候・生活文化） 第1編 第2章 資料から読み取る現代世界 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（資源・産業）
2学期	学期末	第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（食料・農業） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（大地形・小地形） 第3編 第1章 自然環境と防災（自然災害・防災） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（人口・都市） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（地球的課題）
3学期	学年末	第3編 第2章 生活圏の調査と地域の展望（生活圏の調査） 総合マイプロジェクト

地理総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	金森 仁美
教科書	高等学校 地理総合(東京書籍)
対象生徒	高校1年(特進クラス)

1. 授業の目標

- ・地理的な見方・考え方を働かせ、現代世界の課題を自分自身の生活（日々の消費、将来の住まい、防犯や防災など）と結びつけて考察する力を養う。
- ・「なぜそうなっているのか？」という逆向きの問いから出発し、主体的にデータや空間を読み解き、持続可能な社会に向けて「自分の居場所」をデザインする力を身につける。

2. 副教材・参考書

- ・新詳 高等地図(帝国書院)、Google Earth、地理院地図などの各種地理データ及び Web GIS ツール

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・教科書や地図帳を用いた、日々の基礎用語のインプット（予習・復習）を欠かさないようにしてください。
- ・iPadでの作業時は、目や姿勢への負担を減らすため画面分割は使わず、フルスクリーンでアプリをスワイプで切り替えながら使用してください。
- ・机の上には常に紙の地図帳や教科書を開いておく習慣をつけましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題や課題は授業中に指示をします。
- ・各学期の節目には、授業での対話を踏まえた小論文やレポート課題を課します。
- ・定期テストで30点未満の者は再試または再試課題を出します。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（50%～80%）、パフォーマンス評価（レポートや探究活動での表現等）（20%～50%）により評価をする。
- ・観点別評価をつける。（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）

6. その他

- ・授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性がある。
- ・中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用いる。

学期		授業内容（教材）
1学期	学期末	第1編 第1章 地図と地理情報システム（地図・GIS） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（気候・生活文化） 第1編 第2章 資料から読み取る現代世界 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（資源・産業）
2学期	学期末	第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（食料・農業） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（大地形・小地形） 第3編 第1章 自然環境と防災（自然災害・防災） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（人口・都市） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（地球的課題）
3学期	学年末	第3編 第2章 生活圏の調査と地域の展望（生活圏の調査） 総合マイプロジェクト

地理総合(2026年度)

単位数	2単位
担当	金森 仁美
教科書	高等学校 地理総合(東京書籍)
対象生徒	高校1年(英語クラス)

1. 授業の目標

- ・地理的な見方・考え方を働かせ、現代世界の課題を自分自身の生活（日々の消費、将来の住まい、防犯や防災など）と結びつけて考察する力を養う。
- ・「なぜそうなっているのか？」という逆向きの問いから出発し、主体的にデータや空間を読み解き、持続可能な社会に向けて「自分の居場所」をデザインする力を身につける。

2. 副教材・参考書

- ・新詳 高等地図(帝国書院)、Google Earth、地理院地図などの各種地理データ及び Web GIS ツール

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・教科書や地図帳を用いた、日々の基礎用語のインプット（予習・復習）を欠かさないようにしてください。
- ・iPadでの作業時は、目や姿勢への負担を減らすため画面分割は使わず、フルスクリーンでアプリをスワイプで切り替えながら使用してください。
- ・机の上には常に紙の地図帳や教科書を開いておく習慣をつけましょう。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題や課題は授業中に指示をします。
- ・各学期の節目には、授業での対話を踏まえた小論文やレポート課題を課します。
- ・定期テストで30点未満の者は再試または再試課題を出します。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点（50%～80%）、パフォーマンス評価（レポートや探究活動での表現等）（20%～50%）により評価をする。
- ・観点別評価をつける。（「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）

6. その他

- ・授業計画については時事問題の導入具合により進度や内容に多少の変更がある可能性がある。
- ・中間テストは行わないが、小テスト等を実施し、重要な評価基準として用いる。

学期		授業内容（教材）
1学期	学期末	第1編 第1章 地図と地理情報システム（地図・GIS） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（気候・生活文化） 第1編 第2章 資料から読み取る現代世界 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（資源・産業）
2学期	学期末	第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（食料・農業） 第2編 第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境（大地形・小地形） 第3編 第1章 自然環境と防災（自然災害・防災） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（人口・都市） 第2編 第2章 様々な地球的課題と国際協力（地球的課題） 第3編 第2章 生活圏の調査と地域の展望（生活圏の調査） 総合マイプロジェクト

数学 I (2026 年度)

単位数	3 単位
担当	萩原, 田村, 山口, 蓑島
教科書	改訂版新編数学 I (数研出版)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

数と式, 図形と計量, 2 次関数及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, SDGs 等の社会問題へそれらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

改訂版 Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

チャート式解法と演習数学演習 I + A (数研出版) (特進のみ)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し, 例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は, Study-Up ノート, 宿題プリントで復習する。疑問点は質問し, 放置しない。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート, 宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。合格点は 50 点以上とする。
- ・Koma jo ステップアップステーションの課題も定期試験の範囲に含める。(特進のみ)

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 30%), 提出物(20%)により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定であり, 授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	第 1 章 式と計算 ・式の計算(多項式の加法と減法, 多項式の乗法, 因数分解) ・実数(実数, 根号を含む式の計算) ・1 次不等式
	期末	第 2 章 集合と命題(集合, 命題と条件, 命題とその逆・裏・対偶, 命題と証明)
二学期	中間	第 3 章 2 次関数 ・2 次関数とグラフ(関数とグラフ, 2 次関数のグラフ) ・2 次関数の値の変化(2 次関数の最大・最小, 2 次関数の決定) ・2 次方程式と 2 次不等式(2 次方程式, 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係, 2 次不等式)
	期末	第 4 章 図形と計量 ・三角比(三角比, 三角比の相互関係, 三角比の拡張) ・三角形への応用(正弦定理, 余弦定理, 正弦定理と余弦定理の応用, 三角形の面積, 空間図形への応用)
三学期	学年末	第 5 章 データの分析 (データの整理, データの代表地, データの散らばりと四分位数, 分散と標準偏差, 2 つの変量間の関係, 仮説検定の考え方) ※英語クラスは留学のため授業・試験なし

数学A (2026年度)

単位数	2単位
担当	萩原, 二村, 蓑島
教科書	改訂版新編数学A (数研出版)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

図形の性質, 場合の数と確率について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 数学と人間の活動の関係について認識を深め, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, SDGs等の社会問題へそれらを活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

改訂版 Study-Up ノート数学 I + A (数研出版)

チャート式解法と演習数学演習 I + A (数研出版) (特進のみ)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書に目を通し, 例題を解くなど予習をしてから授業に参加することが望ましい。
- ・授業が終わった内容は, Study-Up ノート, 宿題プリントで復習する。疑問点は質問し, 放置しない。

4. 宿題・課題・再試について

- ・Study-Up ノート, 宿題プリントを毎回の宿題とする。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。再試合格点は 50 点以上とする。
- ・Komajo ステップアップステーションの課題も定期試験の範囲に含める。(特進のみ)

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点 (基本問題 50% 応用問題 30%), 提出物 (20%) により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定であり, 授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	準備 集合 第1章 場合の数と確率 ・場合の数(集合と要素の個数, 場合の数, 順列, 組合せ)
	期末	・確率(事象と確率, 確率の基本性質, 独立な試行と確率, 条件付き確率, 期待値)
二学期	中間	第2章 図形の性質 ・平面図形(三角形と辺の比, 三角形の外心・内心・重心, チェバの定理・メネラウスの定理, 円に内接する四角形, 円と直線)
	期末	・平面図形(2つの円, 作図) ・空間図形(直線と平面, 空間図形と多面体)
三学期	学年末	第3章 数学と人間の活動 (約数と倍数, 素数と素因数分解, 最大公約数・最小公倍数, 整数の割り算, ユークリッドの互除法, 1次不定方程式, 記数法, 座標の考え方, ゲーム・パズルの中の数学) ※英語クラスは留学のため授業・試験なし

化学基礎(2026年度)

単位数	2単位
担当	横溝
教科書	新編 化学基礎 (東京書籍)
対象生徒	高校1年(進学)

1. 授業の目標

化学基礎の学習を通して、自分達の周囲にある様々な物質や現象に対して化学的な視点を獲得させるとともに、地球規模での環境問題等について持続可能な開発目標(SDGs)を化学的な視点で考えていく態度を養う。

なお、これらの視点・態度は、実験・観察において、仮説・計画・分析・検証・発表などの活動を取り入れることでも養っていくことを目指す。また、ICT機器を活用し、生徒-教員間、生徒-生徒間の双方向型の学習を促進することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目標とする。

2. 副教材・参考書

[新課程] ニューサポート 新編化学基礎 (東京書籍)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

化学では、身の回りの物質が起こす現象を原子・分子の視点から理解していくために、その性質や原理などを学習していく教科書である。そのためには、新しく学習した言葉の一つ一つの意味を単に暗記するだけではなく自分の言葉としてかみ砕き説明できるようにすることを大切にするとともに、既習の言葉や概念との関連性を考えることが必要である。

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、単元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点、小テストや実験レポート等のパフォーマンスにより、以下の表のように観点別評価をつける。

6. その他 授業計画は予定であり、多少前後する可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	中間	1 編 1 章 物質の成分と構成元素 ・純物質と混合物 ・混合物の分離と精製 ・単体と化合物 ・元素の確認・同物質の三態 2 章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造 ・電子配置 ・元素の周期表
	期末	3 章 化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・化学結合と物質の分類
二学期	中間	2 編 1 章 物質質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質質量 ・化学反応式とその量的関係 ・溶液の濃度
	期末	2 章 酸と塩基 ・酸と塩基の定義 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩 ・中和滴定
三学期	学年末	3 章 酸化還元反応 ・酸化と還元の定義 ・酸化剤と還元剤 ・酸化還元反応式 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用

化学基礎(2026年度)

単位数	2単位
担当	菱山
教科書	新編 化学基礎 (東京書籍)
対象生徒	高校1年聖組 (特進)

1. 授業の目標

化学基礎の学習を通して、自分達の周囲にある様々な物質や現象に対して化学的な視点を獲得させるとともに、地球規模での環境問題等について持続可能な開発目標(SDGs)を化学的な視点で考えていく態度を養う。なお、これらの視点・態度は、実験・観察において、仮説・計画・分析・検証・発表などの活動を取り入れることでも養っていくことを目指す。また、ICT機器を活用し、生徒-教員間、生徒-生徒間の双方向型の学習を促進することで、主体的・対話的で深い学びの実現を目標とする。

2. 副教材・参考書

【新課程】ニューサポート 新編化学基礎 (東京書籍)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

化学は、身の回りの物質が起こす現象を原子・分子の視点から理解していくために、その性質や原理などを学習していく教科である。この学問を理解するためには、新しく学習した言葉の一つ一つの意味を単に暗記するだけではなく、自分の言葉としてかみ砕き説明できるようになることを大切にするとともに、既習の言葉や概念との関連性を考えることが必要である。

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、單元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点を80%、小テストや実験レポート等のパフォーマンス評価を20%として評価する。

6. 授業計画

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	1 編 1 章 物質の成分と構成元素 ・純物質と混合物 ・混合物の分離と精製 ・単体と化合物 ・元素の確認・同物質の三態 SDGs：混合物の分離実験 2 章 原子の構造と元素の周期表 ・原子の構造 ・電子配置 ・元素の周期表
	期末	3 章 化学結合 ・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合 ・化学結合と物質の分類
二学期	中間	2 編 1 章 物質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質量 ・化学反応式とその量的関係 ・溶液の濃度
	期末	2 章 酸と塩基 ・酸と塩基の定義 ・水素イオン濃度と pH ・中和反応と塩 ・中和滴定
三学期	学年末	3 章 酸化還元反応 ・酸化と還元の定義 ・酸化剤と還元剤 ・酸化還元反応式 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用 SDGs：金属のイオン化傾向と環境

授業計画は予定であり、多少前後する可能性がある

生物基礎(2026年度)

単位数	2単位
担当	稲津
教科書	生物基礎新訂版(実教出版)
対象生徒	高校1年生

1. 授業の目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。また、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 副教材・参考書

アクセスノート生物基 改訂版(実教出版)

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業の内容をよく聞き、分かり易く、見やすいプリントづくりに取り組むこと
- ・各単元の授業が終了したら、問題集で対応する問題を解くこと。分からないところは早めに質問すること。
- ・定期試験直前には、授業内で試験対策を行う。試験の最終確認に活用すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・調べ学習およびプレゼンテーション、実験レポートなどの課題を課す。取り組み状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。
- ・定期試験毎に授業プリントと問題集の提出を求める。提出状況によりパフォーマンス評価の加点対象となる。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(80%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定であり、状況に応じて授業の進度の前後や変更をする場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	第1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1. 生物の多様性・共通性 2. 生物の共通性と進化 3. 細胞 2節 生物とエネルギー 1. 代謝とエネルギー
	期末	第1章 生物の特徴 2節 生物とエネルギー 2. 酸素と代謝 3. 光合成 4. 呼吸 5. エネルギーの流れ 第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 1. 遺伝子の本体 2. DNAの複製と分配
二学期	中間	第2章 遺伝子とその働き 2節 遺伝情報の分配 1. 遺伝子とタンパク質 2. タンパク質の合成 3. 遺伝子の発現 4. ゲノムと遺伝子 第3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 1. 体内環境と恒常性 2. 体液とその働き 3. 体温の調節
	期末	第3章 生物の体内環境とその維持 2節 体内環境の維持のしくみ 1. 情報の伝達 2. 自律神経系による情報伝達 3. 内分泌系による調節 4. 内分泌系と自律神経系による調節 3節 免疫 1. 生体防御と免疫 2. 自然免疫のしくみ 3. 獲得免疫のしくみ 4. 免疫と疾患
三学期	学年末	第4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1. 生態系 2. 植生とその変化 3. 遷移のしくみ 2節 気候とバイオーム 1. 世界のバイオームとその分布 2. 日本のバイオーム SDGs ゴール15番目である生物多様性について理解を深める課題 関係する単元 第4章 3節 生態系と物質循環 4節 生態系バランスと保全

科学と人間生活(2026年度)

単位数	2単位
担当	荒井
教科書	新訂版 科学と人間生活 (実教出版)
対象生徒	高校1年 英語クラス

1. 授業の目標

自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを見通しをもって行うことなど通して理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2. 副教材・参考書

「エブリィノート 科学と人間生活」(実教出版)

3. 学習を受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

授業内では一方向の学習だけではなく、生徒自らが論点をまとめ、発言・発表・論述などができるように取り計らう。また、授業・復習のどちらにおいても、疑問点・問題点を見出すような意識を持てるように促すことも重要である。

4. 宿題・課題・再試について

定期的に小テストまたは課題演習を行い、単元ごとに学習状況を把握できるように努める。また、可能であれば各学期で実験等を行い、その内容をレポートにまとめさせ、それを宿題・課題とする。

5. 評価の基準について

定期試験の得点(80%)、パフォーマンス(20%)により評価をする。パフォーマンスは、小テストや課題、実験レポート、ノート提出等である。

※ 定期試験とパフォーマンスの割合は、変更の可能性がある。

6. その他 授業計画は予定であり、前後する可能性がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	期末	1章 科学と技術の発展 1.科学と技術の始まり 2.海 ―とくに深海を科学の眼で見よう― 3.土 ―農業を通して考える― 2章 物質の科学 1節 材料とその再利用 1.生活の中のさまざまな物質 2.金属 3.プラスチック 4.セラミック ※リサイクルについて考える。
		3章 生命の科学 1節 ヒトの生命現象 1. ヒトの生命現象と DNA 2. 血糖濃度の調節 3. 抗体による生体防御のしくみ 4. 視覚と私たちの生活
二学期	期末	4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用 1. 熱 2. 熱量とその保存 3. 熱の発生 4. エネルギーの保存と利用
		5章 宇宙や地球の科学 2節 自然景観と自然災害 1. 身近な景観のなりたち 2. 地球内部のエネルギー 3. さまざまな自然災害と防災 4. 自然の恵み 6章 これからの科学と人間生活

英語コミュニケーション I (2026 年度)

単位数	3 単位
担当	本間
教科書	Landmark Fit English Com. I (啓林館)
対象生徒	高校 1 年(進学クラス 美～真)

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつなげた統合的な言語活動を通し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の 5 領域の力を育成する。

2. 副教材・参考書

Landmark Fit English Com. I サブノート (啓林館)
 英語 4 技能型テストへのアプローチ⑩ (数研出版)
 総合英語 Harmony (いいずな書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、プリント類で復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 課題・再試について

- ・課題は期限を守って提出すること。
- ・定期試験の素点が 30 点に満たない場合は再試験を実施する。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(2 学期より英検加点あり・80%)パフォーマンス評価(20%)により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	自己紹介, Lesson 2 Curry Travels around the World / 4 技能テスト⑩ Test 1 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
	期末	Lesson4 Eco-Tour on Yakushima / 4 技能テスト⑩ Test 2 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
二学期	中間	Lesson 6 Chirori the Therapy Dog / 4 技能テスト⑩ Test 3, 4 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表 ・SDGs 学習 自分にできることを書いてみよう。
	期末	Lesson 7 Cacao Revolution / 4 技能テスト⑩ Test 5 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表
三学期	学年末	Lesson 9 The Moon / 4 技能テスト⑩ Test 6, 7 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表

7. パフォーマンス評価

- ・計画は予定である。適宜内容が変わる場合がある。

	パフォーマンステスト (10 点)	提出物 (5 点)	単語テスト (5 点)
1 学期	教科書音読、スピーキング	Worksheet サブノート等	教科書既習単語
2 学期	インタビューショー	Worksheet サブノート等	教科書既習単語
3 学期	プレゼンテーション	Worksheet サブノート等	教科書既習単語

英語コミュニケーション I (2026 年度)

単位数	3 単位
担当	宮崎、ルナ
教科書	Landmark English Com. I (啓林館)
対象生徒	高校 1 年(特進クラス)

1. 授業の目標

- ・本授業では、外国語によるコミュニケーションにおいて重要な「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 つの言語技能を統合的に活用し、情報や考えを正確に理解し、適切に表現する能力を養う。目的や状況に応じた外国語の運用能力を高め、実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目指す。
- ・以下の 5 つの領域 (聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと) において、各技能のバランスを取りながら確実に力を伸ばし、異なる場面や状況に適切に対応できる力を育成し、外国語での効果的なコミュニケーション能力を養うことを目指す。

2. 副教材・参考書

- Landmark English Com. I サブノート (啓林館)
- Landmark English Com. I ワークブック (啓林館)
- 英語 4 技能型テストへのアプローチ① (数研出版)
- 英単語ターゲット 1400 (旺文社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、ワークブックで復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題は教科書の内容を中心としてサブノート、ワークブックを中心に音読などを課す。
- ・英単語ターゲット 1400 を使用して、単語の小テストを週に 1 回実施する。満点を目指して学習をすること。
- ・学期に 1 回程度、スピーキングもしくは音読を中心としたパフォーマンステストを実施する。
- ・定期テストが 30 点未満の場合は再試もしくは再試課題を課す。
- ・Komajo ステップアップステーションの課題も定期試験の範囲に含める。試験範囲に関しては、定期試験前に範囲を連絡する。
- ・長期休暇中に、授業計画外の課に関して課題や宿題を設定する予定である。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 60%応用問題 20%)、提出物や単語小テストを含むパフォーマンス評価(20%)により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	Lesson1 Unlock Your Potential 4 技能テスト① Test1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1~200) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
	期末	Lesson2 Curry Travels around the World 4 技能テスト① Test 3 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.201~450) 、夏休み課題(No.451~600) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
二学期	中間	Lesson3 The Moon and Our Culture Lesson4 Eco-Tour on Yakushima 4 技能テスト① Test 4・5 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.601~800) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
	期末	Lesson5 Cacao Revolution Lesson6 Communication without Words 4 技能テスト① Test 6 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.801~1100) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
三学期	学年末	Lesson7 Thank You, Bailey! 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1~1100 までの復讐) 4 技能テスト① Test 7 ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など

単位数	4 単位
担当	宮崎、本間、アルヴァロ
教科書	Landmark English Com. I (啓林館)
対象生徒	高校 1 年(英語クラス)

1. 授業の目標

- ・本授業では、外国語によるコミュニケーションにおいて重要な「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 つの言語技能を統合的に活用し、情報や考えを正確に理解し、適切に表現する能力を養う。目的や状況に応じた外国語の運用能力を高め、実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目指す。
- ・以下の 5 つの領域 (聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くこと) において、各技能のバランスを取りながら確実に力を伸ばし、異なる場面や状況に適切に対応できる力を育成し、外国語での効果的なコミュニケーション能力を養うことを目指す。

2. 副教材・参考書

- Landmark English Com. I サブノート (啓林館)
- Landmark English Com. I ワークブック (啓林館)
- 英語 4 技能型テストへのアプローチ⑩ (数研出版)
- 英単語ターゲット 1400 (旺文社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・事前に教科書にざっと目を通し、何が書かれているのか、トピックの推測をすることが望ましい。
- ・授業が終わった内容は、サブノート、ワークブックで復習する。
- ・新出語の発音練習や教科書音読の際は間違いを恐れずに声を出して積極的に参加する。
- ・週 1 回実施される単語の小テストは事前に自分で十分に学習してから受験をする。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題は教科書の内容を中心としてサブノート、ワークブックを中心に音読などを課す。
- ・英単語ターゲット 1400 を使用して、単語の小テストを週に 1 回実施する。満点を目指して学習をすること。
- ・学期に 1 回程度、スピーキングもしくは音読を中心としたパフォーマンステストを実施する。
- ・定期テストが 30 点未満の場合は再試もしくは再試課題を課す。
- ・試験範囲に関しては、定期試験前に範囲を連絡する。
- ・長期休暇中に、授業計画外の課に関して課題や宿題を設定する予定である。

5. 評価の基準について

- ・定期試験の得点(基本問題 50%応用問題 20%)、提出物や単語小テスト・オンライン英会話を含むパフォーマンス評価(30%)により評価をする。

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	Lesson1 Unlock Your Potential / Lesson2 Curry Travels around the World 4 技能テスト① Test1・2 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.1~200) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
	期末	Lesson3 The Moon and Our Culture / Lesson4 Eco-Tour on Yakushima 4 技能テスト① Test 3・4 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.201~450) 、夏休み課題(No.451~600) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
二学期	中間	Lesson5 Cacao Revolution / Lesson6 Communication without Words 4 技能テスト① Test 5、6 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.601~800) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など
	期末	Lesson7 Thank You, Bailey! Lesson8 The Secret Life of a Gamer 4 技能テスト① Test 7 英単語ターゲット 1400 小テスト(No.801~1100) ・ワークシートを用いた速読及び音読練習・ディクテーション、リプロダクション、意見交換及び発表など

単位数	2 単位 (English Speaker の教員 1+日本人教員 1)
担当	宮崎、丹野、柳澤、アルヴァロ
教科書	Harmony I (いいずな書店)
対象生徒	高校 1 年 (進学・特進クラス)

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞く・読む・話す・書くといった言語活動や、それらを統合した活動を通して、情報や考えを的確に理解し、適切に表現し、伝え合う資質・能力を育成する。
- ・5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

Harmony New Edition (いいずな書店) 全クラス共通
 Harmony Grammar Book (いいずな書店) 特進クラスのみ

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強すること。
- ・中学までの既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり、書いたりするアウトプット活動が授業では多いので、間違いを恐れずに積極的に参加すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと、反復練習と確認のための課題を出す。また、スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は原則として再試験を実施する。

5. 評価の基準について

- ・授業内試験の点数から 10 段階で評価する。パフォーマンス評価は ALT の授業評価を 50 パーセント、日本人の授業内容、試験内容を 50 パーセントとする。定期試験には応用問題も含まれる。(約 20%)

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	前半	日本人: Lesson 1 自分のことを話す・相手のことをたずねる。 外国人: 英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
	期末迄	日本人: Lesson 2 休日にしたことを説明する。 外国人: 英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
二学期	前半	日本人: Lesson 3 自分の予定を話す・相手の予定をたずねる。 外国人: 英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
	期末迄	日本人: Lesson 4 したことがあること・ないことについて話す。 外国人: 英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
三学期	学年末	日本人: Lesson 5 してもよいこと・してはいけないことを伝える。 外国人: 自分の好きなことについてプレゼンテーションをする。

論理・表現 I (2026 年度)

単位数	3 単位 (English Speaker の教員 1+日本人教員 1)
担当	宮崎、アルヴァロ
教科書	Harmony I (いっずな書店)
対象生徒	高校 1 年(英語クラス)

1. 授業の目標

- ・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞く・読む・話す・書くといった言語活動や、それらを統合した活動を通して、情報や考えを的確に理解し、適切に表現し、伝え合う資質・能力を育成する。
- ・5 領域のなかの特に 3 領域、「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」において、発信力の強化をはかる。

2. 副教材・参考書

Harmony New Edition (いっずな書店) 全クラス共通
 Harmony Grammar Book (いっずな書店) 英語クラス

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・英語で自分の事を表現する楽しさを感じながら勉強すること。
- ・中学までの既習事項の整理・定着をさせるために授業後の復習を大切にする。
- ・英語を話したり、書いたりするアウトプット活動が授業では多いので、間違いを恐れずに積極的に参加すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・文法項目を学んだあと、反復練習と確認のための課題を出す。また、スピーキングやライティング能力を伸ばす為、発表する機会もある。
- ・必要に応じてプリントを配布する場合がある。
- ・定期試験の結果が 30 点未満の場合は再試を受験しなければならない。

5. 評価の基準について

- ・授業内試験の点数から 10 段階で評価する。課題の提出物、授業内小テスト、授業発表も評価内に含む。パフォーマンス評価は ALT の授業評価を 50 パーセント、日本人教員の授業内容、試験内容を 50 パーセントとする。定期試験は毎回行う。定期試験には応用問題も含まれる。(約 20%)

6. その他

- ・授業計画は予定である。適宜、既習範囲の復習は内容が変わる場合がある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	日本人：Lesson 1 自分のことを話す・相手のことをたずねる。 Lesson 2 休日にしたことを説明する。 外国人：英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
	期末	日本人：Lesson 3 自分の予定を話す・相手の予定をたずねる。 Lesson 4 したことがあること・ないことについて話す。 Lesson 5 してもよいこと・してはいけないことを伝える。 外国人：英語の子音および母音に関する基礎的な知識を学習する。 身近なトピックについて友達とやり取りをする。
二学期	中間	日本人：Lesson 6 ある出来事について推測する。 Lesson 7 さまざまなものを紹介する。 外国人：留学中に想定される場面における英会話表現を学ぶ。
	期末	日本人：Lesson 8 これからしたいことについて話す。 Lesson 9 足りない情報を補う・説明を付け加える。 Lesson10 あるもの・人によって可能になることについて話す。 外国人：留学中に想定される場面における英会話表現を学ぶ。

情報 I (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	田村, 横溝
教科書	高等学校 改訂版 情報 I (第一学習社)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

情報社会の問題解決, デジタル化と情報デザイン, コンピュータとプログラミング, ネットワークとデータの活用, プレゼンテーション技術, 表計算処理などについて理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 情報社会で生き抜く能力を培い, 情報の知識, 技術のよさを認識できるようにするとともに, AI に正しく質問する力「プロンプトデザイン」を磨くよう積極的かつ適切に AI を活用する態度を育てる。

2. 副教材・参考書

- ・書籍副教材「改訂版 情報 I 学習ノート」(第一学習社)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・情報実技において, パソコンを中心とした実習を適宜行う。大学生, 社会人として最も活用する電子機器であるため, 基本的なコンピュータ操作を習得できるよう積極的かつ楽しみながら授業に臨むこと。
- ・情報社会を生きる上での必要な情報モラルや法規と権利にかかわる知識を学ぶ。自分の SNS の使い方が正しいかどうかや, 大きなトラブルに巻き込まれないようどのように行動すべきなのか知識を深めること。
- ・情報科学において, 普段よく活用するスマートフォンやタブレット, アプリ, 通信技術, 動画視聴などがどのような技術で成り立っているのか理解を深め, それらを適切に利用し, 必要に応じて改善できるよう論理的プロセスを大切にしながら学習すること。

4. 宿題・課題・再試について

- ・宿題について, 通常授業では確認問題, ワークシート等の課題を課す。期末考査前は期末試験の対策プリントや「改訂版 情報 I 学習ノート」を課す。提出状況をパフォーマンス評価の対象とする。
- ・パソコン学習等の実技で試験や探究課題を課す。試験結果や提出状況を応用問題評価やパフォーマンス評価の対象とする。
- ・上記以外に必要なに応じて試験, 課題を追加する場合がある。
- ・定期試験の結果に応じて再試を課す場合がある。

5. 評価の基準について

- ・各学期, 期末試験と実技試験, 実技課題・作品, 授業で実施する提出課題にて成績を評価する。
- ・基本問題(定期試験)は 50%, パフォーマンス評価として応用問題(実技・提出物・小テスト等)は約 20%, スライド・探究発表等は約 30%で評価する。

6. その他

- ・授業計画は予定であり, 適宜進捗状況に応じて内容を変更することがある。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	期末	座学 : P スタディ 第1章, 第2章 ① 情報社会の問題解決 → 情報とは, 問題解決, 情報社会の安全対策とルール, 情報技術 ② デジタル化と情報デザイン → 数値のデジタル表現, 様々なデジタル表現, コミュニケーションと情報デザイン 実技 : ① パソコン学習 → タイピング, PowerPoint (プレゼン技術) の活用 ② タブレット学習 → Keynote (プレゼン技術) の活用 探究 : ① PowerPoint もしくは Keynote でプレゼンテーションを行う。
二学期	期末	座学 : P スタディ 第2章, 第3章, 第4章 コンピュータとプログラミング → コンピュータのしくみ, アルゴリズムとプログラミング 実技 : パソコン学習 → Excel (表計算, デザイン, 関数), Python (プログラミングの基礎) 探究 : 絵画アプリ (ピクトグラム制作&AI(プロンプトデザイン))
三学期	学年末	座学 : ネットワークとデータの活用 → ネットワークとセキュリティ, データベース, データ分析 実技 : パソコン学習 → SQL (DB システム), Word (文書作成) 探究 : SDGz に関するポスター製作 (AI(プロンプトデザイン))

音楽 I (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	加瀬智子
教科書	高校生の音楽 (教育芸術社)
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

- (1) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。
- (2) 音楽に対する感性をより豊かにし、表現の技能を伸長し、創造的に表現する能力を高める。
- (3) 世界の多様な音楽に対する総合的な理解を深め、幅広く鑑賞する能力を高める。

2. 副教材・参考書

リコーダーライブラリー

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習・復習のポイント等

- ・歌唱や器楽の授業ではクラスメイトと協力して授業を進めることがあるため、互いを尊重しながら協調性を持って取り組むこと。
- ・授業で行った基本的な音楽の知識については、授業内小テストによりでこまめに確認を行う。小テストの前にはプリント学習などを配布するので、内容理解に努めること。
- ・鑑賞などでは、自分の言葉で具体的に記述することを大切にする。

4. 宿題・課題・再試について

提出物は基本的にロイロノートへの提出とする。

授業内小テストも定期試験と同様に点数が低い場合は再試を行う場合がある。

5. 評価の基準について

- ・実技試験 (70%)、筆記試験 (20%)、提出物 (10%) により評価をする。各評価の割合は学期によって変動することがある。

6. その他

- ・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は既習範囲の復習を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	中間	導入 楽典 音楽の基礎知識 (音名 音価 音部記号) 歌唱 斉唱 (響きづくりのポイント 歌詞に込められた曲想を生かす) 器楽 リコーダー (楽器の歴史 奏法について カノン バロックホウダウン)
	期末	鑑賞 ラヴェル ショパン (管弦楽 ピアニズム)
二学期	中間	歌唱 女声二部合唱 (二部合唱の響き 作品の背景) 器楽 リズム (Clapping Quartet No1) 鑑賞 ベートーヴェン (生涯 交響曲 協奏曲 ピアノソナタ)
	期末	創作 リズム創作 (Garage Band) 楽典 拍子 楽語
三学期	学年末	歌唱 イタリア歌曲 (言葉の響き 旋律の美しさ Caro mio ben) 器楽 リコーダー (サミング 高音域のポイント ていんさぐぬ花 メヌエット) 鑑賞 ミュージカル 作曲家の生涯 (West Side Story) 創作 メロディ創作 (Garage Band)

芸術・美術 I (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	高橋 千草
教科書	高校美術 日本文教出版
対象生徒	高校 1 年

1. 授業の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2. 副教材・参考書

特になし

3. 学習する上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ・授業内で疑問を解決し、計画的に作品を完成できるような姿勢で参加することが望ましい。
- ・授業を欠席した場合は提出期限前までに放課後自主的に不足分を補う事が望ましい。
- ・課題制作の上で試行錯誤しながらも粘り強くチャレンジする姿勢が望ましい。
- ・課題は期限までに完成させ必ず提出する。

4. 宿題・課題について

- ・授業内で課題が完成されない場合は宿題となる。

5. 評価の基準について

- ・各学期の課題（提出物 100%）により 評価をする。

6. その他

授業計画は予定であり、授業の進捗状況により課題の増減がある場合もある。
リモート授業等で授業内容の変更あり

高 1 美術 I 授業計画 (夏休みの課題…顔のイラストレーションの一部・色の学習)

	授業計画
1 学期	デザイン 2 点透視を使った平面構成 絵画 静物画 (油彩)
2 学期	絵画 抽象画 (油彩) デザイン 図形をモチーフにした 平面構成 立体
3 学期	絵画 静物画 (油彩) 絵画・デザイン 顔のイラストレーション

書道 I (2026 年度)

単位数	2 単位
担当	木立 マリコ
教科書	書道 I (教育図書)
対象生徒	高1 書道選択 40 名

1. 授業の目標

- ・芸術科書道という分野を理解し、臨書力を身につける。
- ・古典臨書を通じて、表現の基礎を学ぶ。
- ・用具・用材、執筆法、用筆法を理解した上で課題に取り組む。

2. 学習する上での留意点

- ・2時間の時間配分を考え、できるだけ集中して練習できるようにする。
- ・用具の取り扱いに十分注意する。

3. 宿題、課題について

- ・基本的には4時間に1度、作品を提出する。

4. 評価の基準について

- ・提出作品により基本となる評価を付ける。
- ・提出作品は全体の八割を占め、残りの二割がノート点と発表などの点。
- ・作品の出来があまり良くなくても、コツコツと努力を重ねている者に関しては考慮する。

5. 評価の基準について

- ・提出作品により基本となる評価を付ける。
- ・提出作品は全体の八割を占め、残りの二割がノート点と発表などの点。
- ・作品の出来があまり良くなくても、コツコツと努力を重ねている者に関しては考慮する。

6. その他

2026年度 年間指導計画表

学期	月	時間	教科書ページ	授業内容	指導内容・備考等
一学期	4	3		曹洞宗書道展の課題	半紙に4字を書く 書写の復習を兼ねて
		1	P. 144～149	書写から書道 用具・用材と姿勢・執筆法	書写と書道の共通点と相違点 用具・用材、姿勢・執筆法の理解
			P. 008～011	漢字の変遷・書の古典	臨書、漢字の変遷の理解
	5	4	P. 12～15	漢字の学習 I 楷書 初唐の三大家の作品 ・孔子廟堂碑「大道」 ・九成宮醴泉銘「清泉」 ・雁塔聖教序「無門」	唐代の代表的な楷書作品の鑑賞と臨書 それぞれの特徴をつかむ
	6	4	P. 16～19		
	6.7	4	P. 20～23		
		計 16			
二学期	9	4	P. 46～47	篆書に親しもう 泰山刻石「皇帝」	篆書の筆遣いを学び、篆刻作品作りに つなげる
	10	8	P. 48～51	篆刻	用具用材を学び正しい用具の使い方 で
	11	6		名前印 朱文印・白文印	作品を作る
	12	4	P. 74～83	仮名の書の世界	仮名の成立・古典・筆遣い・連綿を学 ぶ
		計 22			
三学期	1	4	P. 24～27	・顔氏家廟碑「武道」	籠字学習
	2	4	P. 28～33	・牛橛造像記「令和」	
	3	2		・鄭義下碑「永和」	
		計 10			

体育(2026年度)

単位数	2単位
担当	二見・小宮
教科書	アクティブスポーツ (大修館書店)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

スポーツの必要性を十分に理解させ、生涯にわたって各自の健康を考えて、生活に欠かすことのできない重要な一部として位置づけさせる

2. 副教材・参考書

アクティブスポーツ (大修館書店)

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

けがや傷害を起こさないように準備運動と整理運動をしっかりと行う。
事故防止に心がけてお互いの安全を確認する習慣をつけさせる

4. 宿題・課題・再試について

実技テストにおいて基準に達していない者は再試を行うこともある

5. 評価の基準について

・実技は 80%、提出物を 20%にして評価をする。

6. その他

・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は教科書内の別の単元を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容 (教材)
一学期	授業内試験	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツテスト 50M走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ ・駒女体操テスト 各競技種目練習 ・クロール及び平泳ぎ25m タイムを計測
二学期	授業内試験	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ボールハンドリング パス、ドリブル、ドリブルシュート 実技テスト、ゲーム・審判法 ・持久走 900m タイム(3周)を計測 1500m タイム(5周)を計測
三学期	授業内試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール キャッチボール、捕球、打撃など 実技テスト、ゲーム

単位数	2単位
担当	井上
教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を具体的かつ行動的に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 副教材・参考書

教授用参考資料

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

単に1教科だけでなく関連の教材や積極的な学校生活が送れるようにする。

日常生活で健康問題に遭遇した場合に活用できるように自らの心身への興味・関心を促す。

4. 宿題・課題・再試について

定期試験の結果が30点未満の場合は課題を課す。

5. 評価の基準について

・定期試験の得点を80%、提出物を10%、ノート提出を10%にして評価をする。

6. その他

・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は教科書内の別の単元を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事と健康
二学期	期末	運動と健康 薬物乱用と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 現代の感染症 感染症の予防
三学期	期末	性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスの対処法 心の健康と自己実現

単位数	2単位
担当	井上
教科書	現代高等保健体育(大修館書店)
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を具体的かつ行動的に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 副教材・参考書

教授用参考資料

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

単に1教科だけでなく関連の教材や積極的な学校生活が送れるようにする。

日常生活で健康問題に遭遇した場合に活用できるように自らの心身への興味・関心を促す。

4. 宿題・課題・再試について

定期試験の結果が30点未満の場合は課題を課す。

5. 評価の基準について

・定期試験の得点を80%、提出物を10%、ノート提出を10%にして評価をする。

6. その他

・授業計画は予定であり、授業が早く進む場合がある。早く終わった場合は教科書内の別の単元を行う。

授業計画		
学期	試験	授業内容(教材)
一学期	期末	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方 健康と意思決定・行動選択 健康に関する環境づくり 生活習慣病とその予防 食事と健康
二学期	期末	運動と健康 薬物乱用と健康 休養・睡眠と健康 喫煙と健康 飲酒と健康 現代の感染症 感染症の予防
三学期	期末	性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制 心身の相関とストレス ストレスの対処法 心の健康と自己実現

高1 ライフデザイン (2026 年度)

単位数	1 単位
担当	学年教員全員
教科書	なし
対象生徒	高校1年

1. 授業の目標

人生のターニングポイントで、自分の満足し得る選択肢を見出すことが出来る力＝「人生を切り拓く力」を身に付ける。5つの分野（コミュニケーションスキル・キャリアプラン・マネープラン・ウィメンズライフ・ジェンダー）の活動を行う。

2. 副教材・参考書

『アンガーマネジメント1』

3. 学習受ける上での留意点・アドバイス・予習、復習のポイント等

- ①グループワーク（協働型学習）が、中心になるため、他の人の話をよく聞き、協力する姿勢を大切にする。
- ②自分の考えをまとめて発表する活動では、人に伝わるように留意する。
- ③提出物は完成した状態で、期限を守って必ず提出する。

4. 宿題・課題・再試について

各活動で課題が必ず出される。

5. 評価の基準について

発表及び提出課題で評価をつける。各学期は5段階で評価し、学年末には「総合的な探究の時間」として Komajo Quest と総合して A・B・C の3段階の評価をつける。

6. その他

授業計画は予定であり、変更することがある。

授業計画	
学期	授業内容（教材）
一学期	コミュニケーションスキル アンガーマネジメント1 キャリアプラン 職業人インタビュー
二学期	ウィメンズライフ 『カラダを知る』講演会・月経座談会 コミュニケーションスキル アンガーマネジメント1 マネープラン 付加価値について・コンビニスイーツを作ろう
三学期	キャリアプラン 生き方を考える講演会 ジェンダー ジェンダー入門 映画『ソニータ』 キャリアプラン 世界で活躍した女性たち